

# 正義の行方

監督●木寺一孝 制作統括●東野真 撮影●澤中淳 音声●ト部忠 照明●柳守彦 音響効果●細見浩三 編集●渡辺政男 制作協力●北條誠人(エーロス&13) プロデューサー●岩下公之  
特別協力●西日本新聞社 協力●NHKエンタープライズ テレビ版制作・著作●NHK 制作●ビジュアルオフィス・普 製作・配給●東風 2024年11月5日(8分) DCP●日本●ドキュメンタリー

これは私たちの「羅生門」

死刑が執行されたいまも多くの謎につつまれた「飯塚事件」  
〈真実〉と〈正義〉がぶつかりあう圧巻のドキュメンタリー

seiginoyukue.com







THE POLICE

森達也

映画監督/作家

観ているあいだ、自分は今、  
どんでもない作品を観ているこの意識が、  
ずっと身体の内奥で駆動し続けていた。  
ここ数年、いや間違いなくもっと長いスパンにおいて、  
これほどに完成度が高く、そして  
強く問題を提起するドキュメンタリーは他にない。

# いまも「真相」は、あの森を彷徨う 「飯塚事件」とは何だったのか?

1992年に福岡県飯塚市で2人の娘が殺害された「飯塚事件」。DNA型鑑定などによって犯人とされた久間三千年は、2006年に最高裁で死刑が確定、2008年に福岡拘置所で刑死した。「異例の早さ」だった。翌年には冤罪を訴える再審請求が提起され、事件の余波はいまなお続いている。本作は、弁護士、警察官、新聞記者という立場を異にする当事者たちが語る——時に激しく対立する〈真実〉と〈正義〉を突き合わせながら事件の全体像を多面的に描き、やがてこの国の司法の姿を浮き彫りにしていく。

## 「オールドメディア」の存在意義は、文化庁芸術祭大賞受賞の傑作ドキュメンタリーに映画化

極めて痛切とし、しかも直接証拠が存在しない難事件の解決に執念を燃やし続けた福岡県警。人間の無実を信じ、「死刑執行後の再審請求」というこの上なき困難に挑み続ける持ち、事件を捜査する調査報道を進めた西日本新聞社のジャーナリストたち。その姿勢は、マスメディアが「オールドメディア」として果たすべき役割を、誰の「真実」が本当なのか、誰の「正義」を正しよのか、大々的に問いかけた。誰の「真実」が本当なのか、誰の「正義」を正しよのか、大々的に問いかけた。

seiginoyukue.com  
@seiginoyukue

THE JOURNALISTS

THE LAWYERS

新刊情報 — 4月4日発売 **正義の行方**

木寺一孝 著 講談社刊 定価：本体1,700円(税別)

「飯塚事件から考える死刑そして再審制度」千葉県弁護士会 2024年12月14日午後1時開場  
場所：千葉県弁護士会館3階講堂 予約不要 無料